

未来投資会議 第7回

持続可能な
次世代医療システムの実現に向けて

2017年4月14日

医療法人社団鉄祐会
株式会社インテグリティ・ヘルスケア
Tetsuyu Healthcare Holdings Pte Ltd
武藤 真祐

自己紹介



医療法人社団鉄祐会 理事長
株式会社インテグリティ・ヘルスケア 代表取締役会長
Tetsuyu Healthcare Holdings Co-Founder and Medical Director

日本循環器専門医、医学博士、米国医師国家試験合格(カリフォルニア州)

経歴

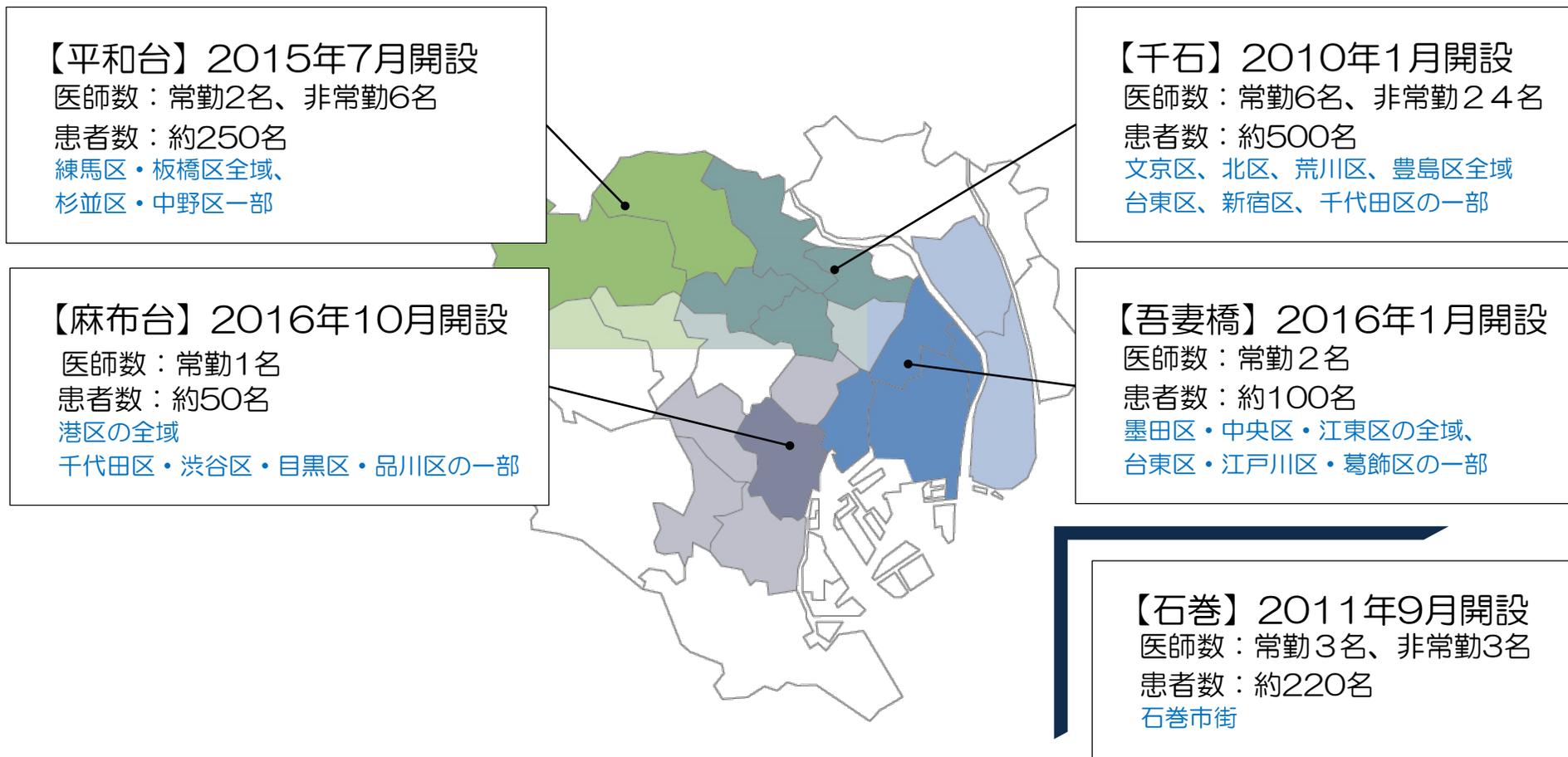
東京大学医学部附属病院、三井記念病院にて循環器内科に従事後、宮内庁で侍医を務める。
その後マッキンゼー・アンド・カンパニーを経て、2010年医療法人社団鉄祐会を設立。
2015年シンガポールでTetsuyu Healthcare Holdingsを設立。

東京大学医学部卒業。東京大学大学院医学系研究科博士課程修了。INSEAD Executive MBA。
Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health (MPH candidate)

公職

東京医科歯科大学 臨床教授
厚生労働省 情報政策参与
他多数

- 2010年1月に東京都文京区に在宅医療を中心に行う祐ホームクリニックを開設し、都内を中心に展開。2011年には東日本大震災を機に、宮城県石巻市にもクリニックを開設し、[医師会](#)および自治体と連携した地域医療の推進に取り組んでいます。



約50名の医師とともに約1200名の患者へ在宅医療を提供



在宅診療所の医師の
訪問スケジュールを一元管理



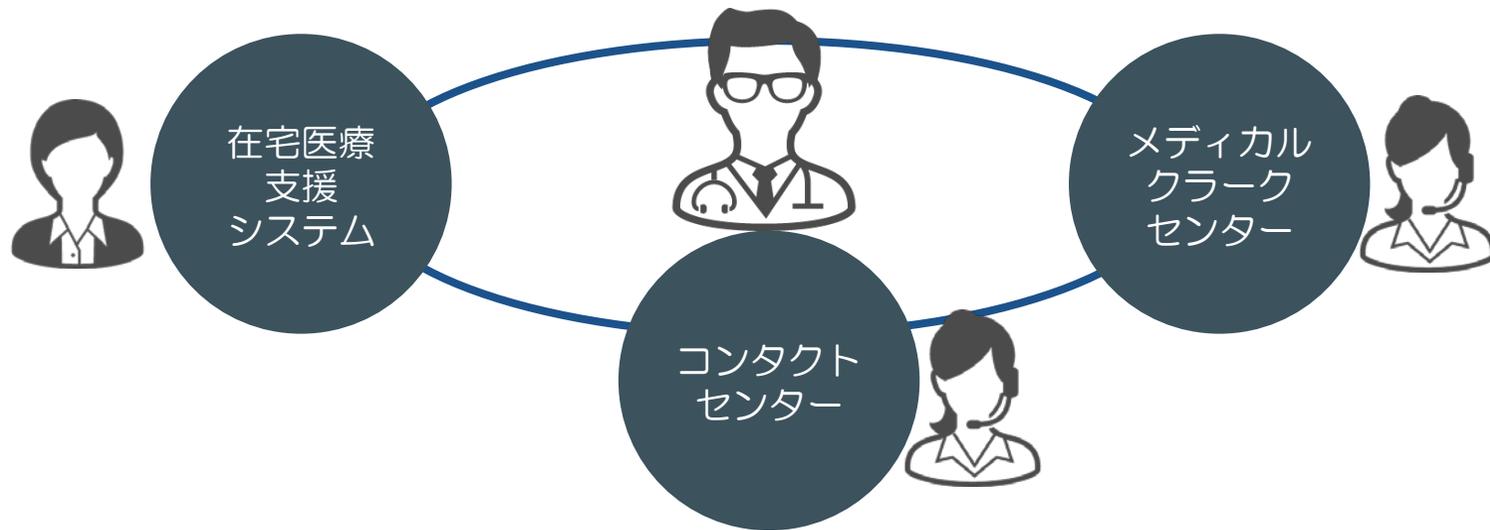
GPSで現在位置を把握、
訪問先までナビゲート



診察内容を記録



診察内容を口述筆記



医師が診療に集中できるようにオペレーションを最適化



情報集積



専門チームによる分析

患者を見守る医療プラットフォーム



センサー/各種デバイス



ケアスタッフ



ロボット

センサーやロボットなど最先端技術を取り入れた在宅医療を提供

いま、医療の現場で何が課題なのか



気づかない

それが重大な疾患の予兆だとしても・・・

風邪かな。
咳止めを
のめばいいか

続けられない

必要だとわかっていても・・・

薬のまなきゃ
だめだろ



もういいかと
思って・・・

仕事
休めないよ



そろそろ
診てもらわないと

通院できますか？

伝えられない

いつもと違うとわかっていても・・・



ええと、
そういわれ
ても・・・



どんなときに
息切れ
しますか？

思い出せない
・・・

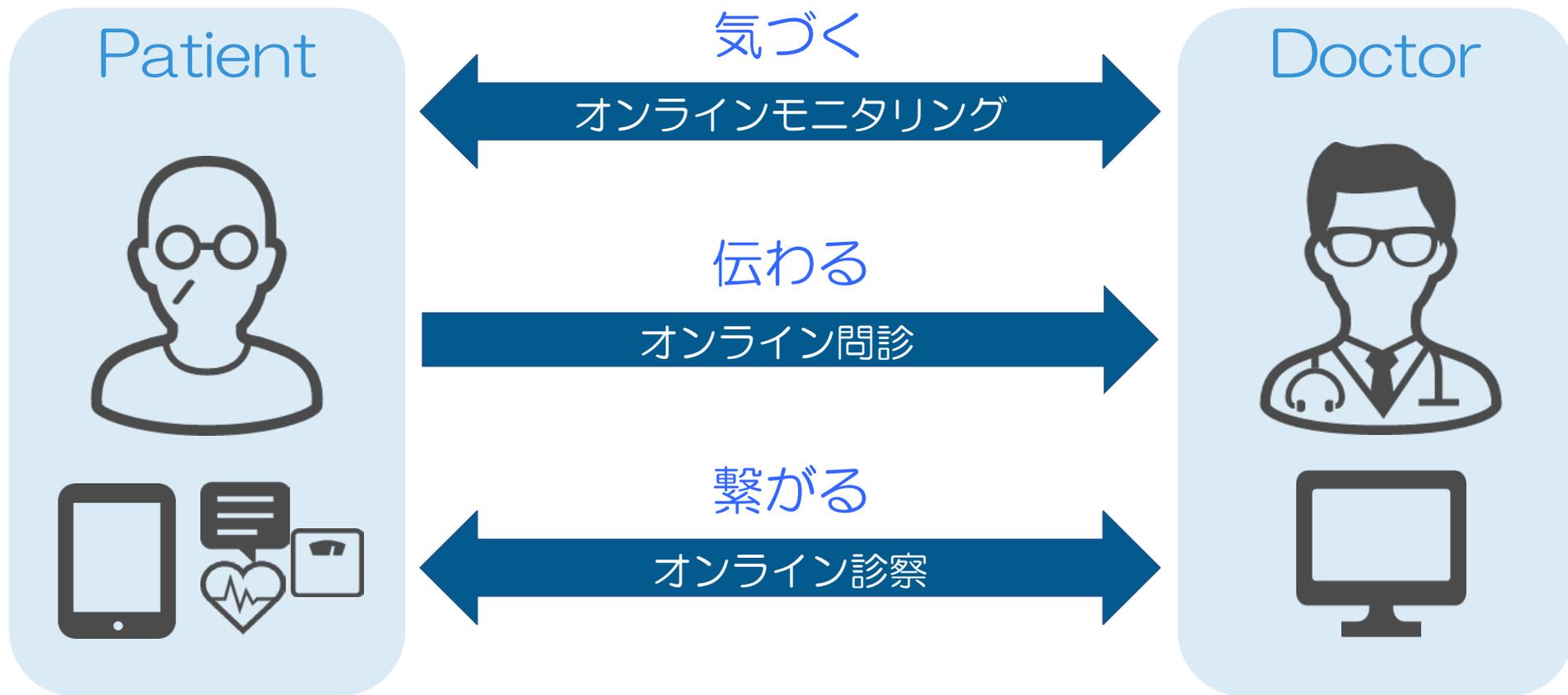


いつ、痛みが
ありましたか？



ひとりでは
とても無理
・・・

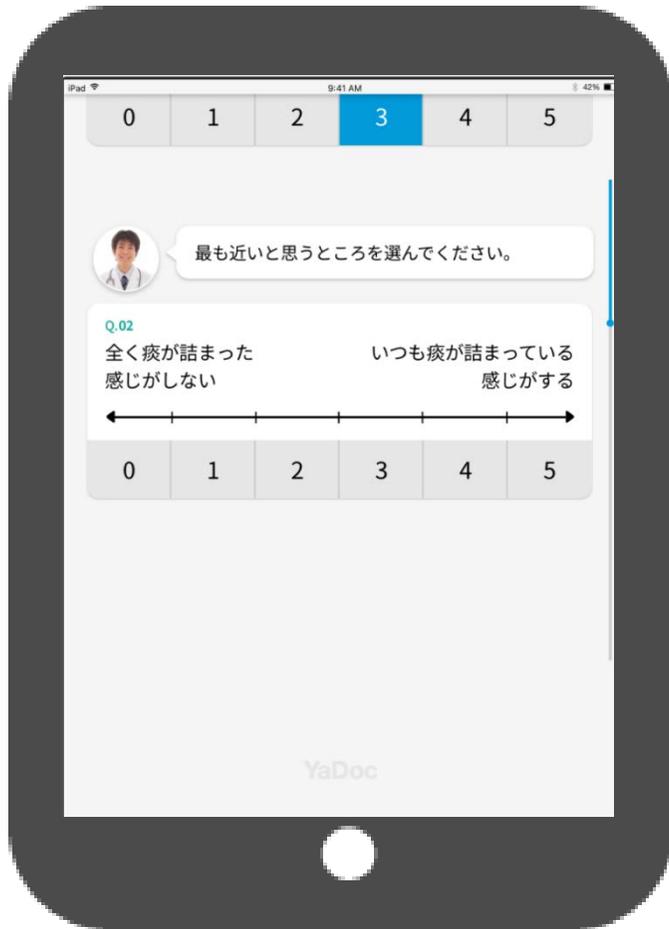
どう解決するか



“待つ” 医療から “参加する” 医療へ



Patient 気づき、伝える



ガイドラインに基づいた問診項目
症状を網羅的に把握し、医師へ伝達



データ連携 (IoT)
各種機器と連携し、データを自動取得



ビデオチャット
仕事や身体への負荷少なく、受診を継続



リマインドアラート
受診や服薬忘れの防止

気づき、把握する

Doctor



ダッシュボード

患者の状態を事前に短い時間で把握



モニタリング

推移をグラフで確認、増悪予兆を察知



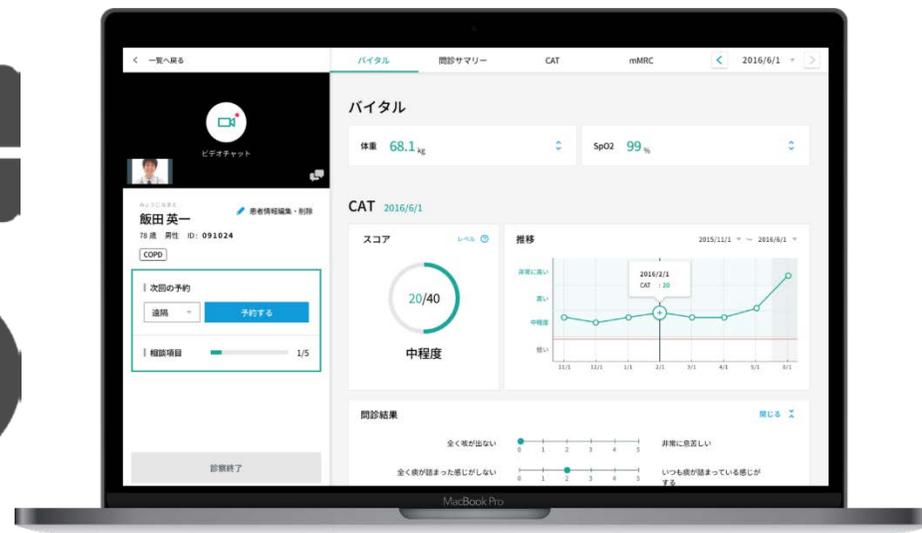
ビデオチャット

時間的、地理的制約なく、医療を提供



学術レファレンス

ガイドラインなど関連情報を参照



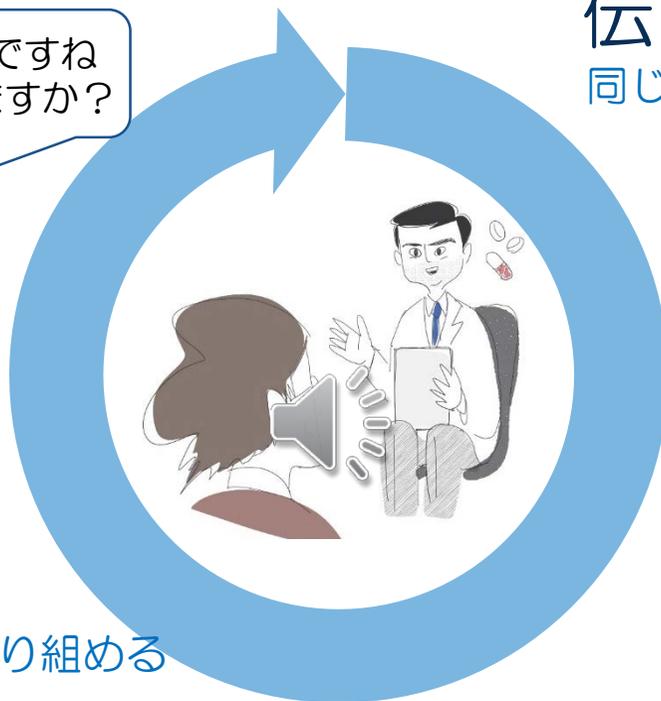
我々が実現したい世界

血圧は
...

気づく
変化を実感し、治療に前向きになれる



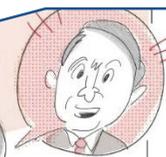
まだ高いですね
薬のめてますか？



伝えられる
同じ理解であることに安心を感じる



スコアが良くな
ってますね！



はい！ちゃんと
のんでますから

続けられる
無理なく、自ら進んで治療に取り組める



これで
大丈夫ですか？



そうそう
上手ですよ

薬は
効きましたか？

だったら
安心だな

薬を変えますね
オンラインで
様子を見ましょうね

はい！
だいぶ楽に
なりました



我々の目指す姿～次世代医療システムのありかた～

Patient

- ✓ 自身の体調への意識や理解が高まり、正しく伝達
- ✓ 受診負荷が軽減され、積極的に治療へ参画
- ✓ かかりつけ医との信頼から安心して治療を継続



医療の質と
アクセスの向上



Doctor

- ✓ 患者の症状を適時に、正確に把握
- ✓ 最善の治療方針を選択し、適切に介入
- ✓ 患者との信頼関係ができ、継続的に医療を提供

- ✓ 医療アクセスと服薬アドヒアランスの向上による治療アウトカムの向上
- ✓ 早期介入・重症化予防による医療コストが抑制
- ✓ 時間的・物理的制約からの開放による医療偏在の解消

Society

患者とかかりつけ医が、よりよい「医療」に向けて協働することで
質が高く持続的な医療システムを実現する

次世代医療システムを普及させていくために必要なこと

よりよい医療提供手段としての
適切な評価と報酬

よりよい医療を提供するための
かかりつけ医と患者が繋がる手段として
適切に評価し、更なる普及に向けた
インセンティブを講じる

安全な運用に向けた
ルールの整備

入院や通院、在宅医療を補完する、
第4の医療インフラとして、
誰もが安心して利用できるルールを整える

医療プラットフォームとしての
標準化

様々な仕様が乱立し、相互接続性が
損なわれることで、効率性や有効性が
阻害されないように、標準化を進める

